

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 財団法人 海外日系人協会

1 事業の趣旨・目的

当協会が行う各種事業は、その特性から、多くの在日日系人と関係があるが、当該日系人の中には日本語能力が高い者がいる。また、平成16年度より開設した、地域の日系就労者を対象とする「みなとみらい日本語教室」においては、受講期間中に日本語能力を日本語指導者としての育成対象レベルまで高めた卒業生が数名いる。

日本語教室受講生の母語を理解し、日本語能力も高い、これらの日系人を日本語指導者として養成し、地域のボランティア団体や日系コミュニティーなどで日本語指導を行える力量をつける。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月25日	JICA 横浜内セミナー	熊井美穂子 武田知子 中元司郎 水上貴雄 中井扶美子	・ 講座の基本方針の確認。 ・ 受講生の確認。 ・ 受講生のニーズをふまえ、講座の構成を考える。	・ 昨年度からの継続受講者と新規受講者が混在しているため、両者に合った内容にしなければならない。 ・ 日本語授業の流れをひととおり理解させてから文法・文型などを指導したほうがよいが、時間がない。9月からのみなとみらい日本語教室での指導内容に合わせ、必要事項のみを抽出する。 ・ 受講者のニーズはクラスレッスンより地域ボランティアや知人など、少人数あるいは個別指導を対象とした

				日本語の教え方であることが予想される。また、自身の日本語能力を高める目的もあることをふまえ、実習・見学に入る予定の日本語教室で扱う課の内容について詳細説明・ワークショップを行う。
8 月 29 日	JICA 横浜内セミナー	熊井美穂子 武田知子 中元司郎 水上貴雄 中井扶美子	・講座のふりかえり ・9月からの日本語教室における日系人講師の活用の仕方を考える。	・参加者の熱心さと真剣さが昨年度より増していた。 ・講義補助を行う日系人講師の指導は1回目の見学の時に行い、2回目に講義補助をしてもらう。授業後に質疑応答を行う。 ・希望者を対象に見学者を受け入れ、状況に応じて通訳などの手伝いを願う。
12 月 26 日	JICA 横浜内セミナー	熊井美穂子 重松美知子 中元司郎 水上貴雄 中井扶美子	・講座のふりかえり	・大人数のクラスよりも少人数・個別指導の仕方という方向性は合っていた。 ・日本語教室を見学した受講生は、講座の内容が具体的に理解できていた。さまざまな気づきもあったようだ。 ・今後現場で教える機会があったときにやはり独学で教授法を整理するには限界がある。学習の継続と今後のフォローが必要。

3 養成講座の内容について

(1) 養成講座名

「みなとみらい日本語教室」日系人教師養成講座

(2) 養成講座の目標

初級レベルの日本語指導法を身に付け、地域のボランティア団体や日系コミュニティーなどで日本語指導を行える力量をつける。

(3) 受講者の総数 27 人

(4) 開催時間数（回数） 20 時間 (8 回)

(5) 参加対象者の要件

スペイン語・ポルトガル語を母語とする中南米出身の日系人

(6) 受講者の募集方法

- ・ 当協会ホームページにより募集広報を行った。
- ・ インターナショナルプレス紙（スペイン語版）に募集広告を掲載した。
- ・ 募集リーフレットを関係各所に配布した。

別添 1. インターナショナルプレス紙（スペイン語版）募集広告。

別添 2. 募集リーフレット

別添 3. 当協会ホームページでの募集広報

(7) 研修会場

JICA横浜内セミナールーム（横浜市中区）

(8) 使用した教材・リソース

にほんごみらい 1、2

日本語文法解説書

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
8月1日 9:30～12:00	・ オリエンテーション ・ テキストの構成 ・ テキスト 6,7 課 ・ 品詞の整理 ・ い・な形容詞の違い ・ 名詞・形容詞の代入練習	ラボ日本語教育研修 所講師 熊井美穂子	24 名
8月8日 9:30～12:00	・ テキスト 8 課 ・ 丁寧体・普通体 ・ 待遇表現	ラボ日本語教育研修 所講師 熊井美穂子	25 名
8月22日 9:30～12:00	・ テキスト 9 課 ・ 動詞グループ分け ・ 代入練習・変換練習	恵泉女学園大学講 師 武田知子	22 名
8月29日 9:30～12:00	・ テキスト 9,10 課 ・ 「～たり、たり」変換練習 ・ 名詞・形容詞・動詞+とき ・ 完成練習	恵泉女学園大学講 師 武田知子	20 名
12月5日 9:30～12:00	・ テキスト 14 課 ・ 助詞	ラボ日本語教育研修 所講師 熊井美穂子	21 名
12月12日 9:30～12:00	・ テキスト 17,21 課 ・ 助詞 ・ 「～んです」 ・ 普通形を使った文型	ラボ日本語教育研修 所講師 熊井美穂子	21 名
12月19日 9:30～12:00	・ テキスト 21,23 課 ・ 条件「と、たら、ば」	横浜市日本語教室 講師 重松美知子	19 名
12月26日 9:30～12:00	・ テキスト 30 課 ・ 「ように、ために」	横浜市日本語教室 講師 重松美知子	20 名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

受講生に対するアンケートの回答は以下の通り。

- ・日常生活で使っている言葉や会話で、自分の気がつかないところで間違っ使っていることがわかった。もっと気をつけなければならないと思った。
- ・助詞は難しいと思っていたのでためになった。
- ・説明が丁寧でわかりやすかった。
- ・日本語でどのように説明をすればわかりやすいか理解でき、勉強になった。
- ・例文作りが実は難しいことがわかった。
- ・もっと長い期間講座を受けたかった。
- ・来年も講座を続けてほしい。

② 実施主体からの研修内容結果評価

わかりやすい日本語で、実践的な日本語教授法を学べる本講座の受講は、日本語を母語としないが、日本語を教えたいという希望を持つ受講生にとって貴重な機会となった。

日本語を母語としないが一定水準以上の日本語力を有する日系人が、市販の文法書を参照する時や一般の日本語教員養成講座を受講する場合、ネイティブレベルの高度な日本語力が要求されるため、日本語教授法の習得をあきらめざるをえない場合が多く見られる。「このような講座をまさに求めていた」と茨城県や群馬県など遠方から通ってくる熱心な受講生も多く、本講座のニーズの多さが伺えた。

日本語を母語としない受講者たちは、自分自身の日本語力について不安な部分を抱えており、まず自分が日本語を理解してから教えたいという希望がある。そのような状況で特に助詞(は、が、へ、に、で、から、まで、と 等)、条件(と、たら、ば)、「んです」など、使用頻度が高く、受講生自身が誤りに気づきにくい内容を取り扱った回は特に満足感と日本語に対する自信を得ることができたようだ。

また、受講生が実際に日本語指導する場を、大人数のクラスレッスンではなく、少人数のグループレッスンを想定して講座内容を組んだという方向性は現実的であり、ニーズに即した内容といえた。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

本講座は今年度をもって終了となるが、「みなとみらい日本語教室」は自主事業として次年度も継続の予定である。

今後も日本語教育関連事業、日系人就労関係の JICA 委託事業等を通じて日系人集住都市と連携し、講師派遣や見学を通じた交流などを推進していく。

これまでのノウハウを活かし、国内在住の日系人に対する支援について新たな取り組みを行っていく。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

本講座受講生を「みなとみらい日本語教室」で日本語能力に応じて指導補助教員として活用した。また、指導補助は希望しないが見学をしたいという受講生も受け入れ、見学の後、質疑応答を行うことで日本語教授法の理解を促した。

② 研修後の人材活用

今後「みなとみらい日本語教室」での指導補助員、受講生の在住地域等での日本語指導ボランティア、在日日系人支援事業などへの積極的なかわりを期待したい。

(12) 今後の課題

・失業中の日系人が、職業訓練として通い始めるケースがあった。受講後すぐ日本語教師の免許がもらえ、定職に就けると思い込み受講をはじめたが、本コースのような短期間のコースを受講しただけでは一般の日本語学校に就職し、十分な収入を得ることは困難であることを説明すると、次回から来なくなった。日系人失業者の職業訓練というニーズの高まりを実感するとともに、日本語教師という職業の実情などの情報も十分伝えるべきであると感じた。

・地域のボランティア教室など、基礎的な日本語教授法を身につけた日系人が活躍できる場はあるが、本講座で学んだ知識をどのような場で活かせばよいのかわからないといった意見も受講生から聞かれたため、受講後の活動の場を具体的に提示するなどのフォローを入れることがさらなる受講生の活用につながる。今後も適宜情報提供を行いたい。